

公開シンポジウム「ポストメディア時代の芸術文化と理論」 Arts and Theories in the Post-Media Era

日時：2017年7月15日（土）13時-17時半
場所：東京藝術大学上野音楽学部キャンパス 5-109
入場無料、予約不要

主催：ポストメディア研究会（Post Media Research Network）
東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科
言語：日本語・英語（通訳あり）

お問い合わせ：
東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科毛利嘉孝研究室
mouri@fac.geidai.ac.jp
HP：http://postmedia-research.net/

「ポストメディア」と呼ばれる時代に文化や芸術はどのように変容するのでしょうか。そして、この時代に適したメディア理論とはどのようなものなのでしょうか。

この公開シンポジウムでは、ソフトウェア・スタディーズと呼ばれる研究領域の提唱者の一人で、ロンドン大学ゴールドスミスカレッジの文化研究センターのディレクター、マシュー・フラー氏とデジタルアートやデジタル文化の美学研究者であり、キュレータとしても活躍するオルガ・ゴリウノヴァ氏の二名を迎え、これからの新しいメディア理論、芸術文化について議論します。

■スケジュール

- 13:00 - 13:10 開会の挨拶 毛利嘉孝（東京藝術大学）
13:10 - 15:00 問題提起「新しいメディア理論に向けて」伊藤守（早稲田大学）
基調講演「ブラック・サイトと透明なレイヤー」
マシュー・フラー（ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ）
15:00 - 15:30 ディスカッション
討論者：毛利嘉孝（東京藝術大学） 司会：大山真司（立命館大学）
15:30 - 16:00 休憩
16:00 - 17:30 シンポジウム「ポストメディア時代の芸術と理論」
報告「データ主体について」オルガ・ゴリウノヴァ（ロンドン大学ロイヤルハロウェイカレッジ）
討論者：清水知子（筑波大学） 司会：水嶋一憲（大阪産業大学）

このシンポジウムは平成29年度科学研究費基盤研究B「ポストメディア文化研究の理論構築：創造産業の日英比較を中心に」（研究代表者：毛利嘉孝、課題番号：17H02587）の研究活動の一環として開催されます。

マシュー・フラー Matthew Fuller

ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ、文化研究教授、文化研究センター・ディレクター。著書に *How to Be a Geek: Essays on the Culture of Software* (Polity)、*Media Ecologies: Materialist Energies in Art and Technoculture* (MIT Press)、編著に *Behind the Blip: Essays on the Culture of Software, Elephant & Castle* (ともに Autonomedia)、アンドリュー・ゴフィーとの共編著に *Evil Media* (MIT Press)。これまで、アーティスト・グループの I/O/D、Mongrel、Yoha と協働してきた。*Software Studies: A Lexicon* の編集、またソフトウェア・スタディーズのオンライン学術誌 *Computational Culture* の共同編集にも携わる。



オルガ・ゴリウノヴァ Olga Goriunova

ロンドン大学ロイヤルハロウェイカレッジのメディアアート学部リーダー、大学院研究のディレクター。著書に、*Art Platforms and Cultural Production on the Internet* (Routledge, 2012)、編著に *Fun and Software: Exploring Pleasure, Pain and Paradox in Computing* (Bloomsbury, 2014)、アレックス・シューギンとの共編著に *Readme. Software Art and Cultures* (University of Aarhus Press, 2004)。また、*Computational Culture, A Journal of Software Studies* (computationalculture.net) の共同創業者・編集者。キュレータとして、Readme, software art festivals, や Runme.org や Fun and Softwareなどを企画。現在「デジタル主体」に関わる単著を執筆中。